正　誤　表

下記の部分に誤りがありましたので訂正させていただきます。ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

IT ストラテジの応用知識　第 1 版第 1 刷

<table>
<tr><th>No</th><th>訂正箇所</th><th>誤</th><th>正</th></tr>
<tr><td>1</td><td>P.102
3.2.2
〈制約式等の作成〉の上から 7 行目</td><td>この式をグラフに表示すると，次頁のグラフになり，このグラフから最適解を求めることができる。
計算で求める場合は，次のようになる。まず，三つの制約式を等号表記した限界線の式に置き換えると，次の三つの式となる。
X ＋ 2Y ＝ 14 ……（a ’）
X ＋ Y ＝ 8 ……（b ’）
3X ＋ Y ＝ 18 ……（c ’）
次に，これらの式の交点をそれぞれ連立方程式を解くことによって求める。</td><td>目的関数を最大とする解を計算で求める場合は，次のようになる。まず，三つの制約式を等号表記した限界線の式に置き換えると，次の三つの式となる。
X ＋ 2Y ＝ 14 ……（a ’）
X ＋ Y ＝ 8 ……（b ’）
3X ＋ Y ＝ 18 ……（c ’）
これらはグラフでは三つの直線で示されるものである。この直線の交点のどれかが最適解に相当すると考えてよい。
次に，これらの式の交点をそれぞれ連立方程式を解くことによって求める。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>P.128
(2)連関図法の上から 2 行目</td><td>これも複数人で何度も関連図を書き直していくことが，効果的な方法とされる。</td><td>これも複数人で何度も連関図を書き直していくことが，効果的な方法とされる。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>P.186
問 4-5
貸借対照表
貸方 2 行目の買掛金</td><td>P 社　貸借対照表　単位：百万円
<table>
<tr><td>現　金</td><td>100</td><td>買 掛 金</td><td>200</td></tr>
<tr><td>商　品</td><td>100</td><td>買 掛 金</td><td>200</td></tr>
<tr><td>貸 付 金</td><td>100</td><td>株主資本金</td><td>500</td></tr>
<tr><td>建　物</td><td>400</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>投　資</td><td>200</td><td></td><td></td></tr>
</table></td><td>P 社　貸借対照表　単位：百万円
<table>
<tr><td>現　金</td><td>100</td><td>買 掛 金</td><td>200</td></tr>
<tr><td>商　品</td><td>100</td><td>借 入 金</td><td>200</td></tr>
<tr><td>貸 付 金</td><td>100</td><td>株主資本金</td><td>500</td></tr>
<tr><td>建　物</td><td>400</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>投　資</td><td>200</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>4</td><td>P.246
②負債比率
（負　債）の式</td><td>（負　債）＝（買掛金）＋（支払手形）＋（未収金）＋（長期借入金）</td><td>（負　債）＝（買掛金）＋（支払手形）＋（未払金）＋（長期借入金）</td></tr>
</table>

株式会社アイテック　商品開発本部 教材制作グループ